

中東欧諸国の市場移行における銀行部門構造の変遷に関する比較研究

京都大学大学院 高田 公

はじめに

1980年代末の社会主義体制の崩壊に直面し、中東欧諸国は資本主義・市場経済への体制の移行を開始した。その中東欧諸国で近年、銀行部門における外国資本の勢力拡大という新たな特徴が観察されている。特に本報告で対象とするハンガリー・ポーランド・チェコ（以下、「中欧三カ国」）の銀行部門は、外国資本の銀行が支配的な状況となっている。本報告では、1992年から2001年までの中欧三カ国の銀行部門構造と銀行民営化政策の変遷を比較分析し、外国資本銀行の支配的状況が発生した原因を検討する。

1. 中東欧諸国の銀行部門構造

中欧三カ国では移行の開始とともに二層式銀行システムの導入が行われ、中央銀行と分離していくつかの国有商業銀行が設立された。多数の民間銀行も設立されたが、それらは小規模で、移行開始直後は国有銀行による寡占の状態であった。その後1990年代中頃からの国有銀行民営化の進展とともに、各国間で市場構造には幾分多様性がみられるようになっていった。しかし1990年代末頃から中欧三カ国の銀行部門は、外国資本銀行による寡占の状態という共通の特徴を持つようになっていく。2001年末現在、銀行部門に占める外国資本の割合は、資本シェアで見ると3分の2以上、資産シェアでは70%以上に達している。

2. 中東欧諸国の銀行民営化政策

移行における金融システム面の目標は、安定的かつ効率的な市場中心のシステムの構築であった。そのための政策の一つが、銀行民営化である。中欧三カ国で採用された銀行民営化の方法をみると、1997年頃を境にして大きな変化がみられる（以下、それ以前を「第一次民営化」、それ以後を「第二次民営化」と総称）。第一次民営化では民営化方式は各国で異なっており、ハンガリーは戦略的外国投資家への売却方式（SFFI方式）、ポーランドは公募方式、チェコはバウチャー方式であった。また各国とも民営化後も国家の持分が一定規模残されていた。一方、第二次民営化では民営化方式は3カ国ともSFFI方式となっている。また国家持分はほとんど残されず、第一次民営化での国家持分もこの時期にSFFI方式で売却された。これによって中欧三カ国の国有銀行の大部分は最終的にSFFI方式によって外国資本の手にわたることとなった。

3. 銀行民営化政策の外国資本への売却方式への「収斂」の原因

なぜ各国で“多様”であった銀行民営化政策がSFFI方式に“収斂”したのだろうか。

第一の要因は、民営化政策の失敗と模倣である。民営化の主な目的は、①民間所有にすることで効率的経営の誘因を高めることと、②売却収入・政治的利益である。前者は各国共通であるが、後者に対する政府の考え方や制約の違いによって、第一次民営化の民営化方式は多様なものとなった。その結果、金融システムも幾分多様なものとなったが、国際機関等の評価は、SFFI方式のハンガリーが安定的なシステムと高く評価されたのに対し、他の二国は不良債権や銀行・通貨危機などを反映して低い評価であった。この

ことは、社会主義期からの負の遺産を抱える国有銀行においては単に民間所有にするだけでは経営改善につながらないことを示唆している。そして他の二国はハンガリーの成功を模倣して、SFFI方式を採用するようになったと考えられる。

それでは SFFI 方式はなぜ成功したのだろうか。中東欧地域の企業・銀行の研究によれば、民営化後の所有構成は集中・外部・外国という特徴が望ましい。国有企業・銀行の経営改善には、外国投資家に経営をゆだねるのが近道ということになる。集中・外部・外国という条件に該当させる民営化方式が、SFFI 方式であった。

第二の要因は、EU 加盟に関わるものである。まず政府の立場からみると、1997 年頃は EU 加盟申請をしていた中欧三カ国の正式な加盟交渉開始が認められるかどうか判断される時期であった。各国政府は悲願である EU 早期加盟の障害となる不安定な金融システムを早急に安定化することが求められ、外国資本の力を借りて銀行経営を改善し、安定化を目指す道をとることとなった。その一つの現れが、外国資本への国有銀行の売却である。

また外国銀行の立場から見ると、EU 拡大はこの地域の魅力を増大させ、また EU 統一市場における戦略からも重要な地域となった。中東欧地域への外国銀行の進出状況は、国籍別では周辺国が目立ち、また欧州で中程度の規模の銀行が多い。これは、EU 周辺国が、EU 統一市場を受けて国内再編を進めるとともに、本国に代わる新たな市場を求めて EU に新規加盟する中東欧諸国へ特に積極的な参入意欲を示したことによるものであると考えられる。

4. おわりに

中欧三カ国の銀行部門における外国資本銀行の支配的状态は、他方式による民営化の失敗と EU 加盟により、外国投資家への売却が銀行民営化方式で選択された結果として生じた。各国は外国銀行の力を借りて金融システム安定化の達成を目指し、また外国銀行も EU 拡大を踏まえて積極的な参入意欲を示した。